

六根清浄大祓 全文

天照皇太神(あまてらすすめおおかみ)の宣(のたま)はく

人(ひと)は則(すなわ)ち天下(あめがした)の神物(かみつもの)なり 須(すべから)く静謐(しずまり)を掌(つかさど)るべし 心(こころ)に穢悪(きたなきこと)有(あ)らむを欲(ほつ)せず 神(かみ)の如(ごと)く外物(そともの)に汚(けが)るる事(こと)有(あ)るも 心(こころ)に汚(けが)るる事(こと)無(な)くば 即(すなわ)ち天地(あめつち)の清浄(きよ)き中(うち)に 而(しか)も五臓(ごぞう)の神君(しんくん)安寧(あんねい)にして 外(そと)より来(きた)る災難(わざわい)を退(しりぞ)け 内(うち)より出(い)ずる邪氣(じゃき)を清(きよ)め 人(ひと)神(かみ)和合(わごう)して 長寿(ちょうじゅ)にして 外物(そともの)汚(けが)れたる者(もの)を洗滌(あらい)清(きよ)めて 必(かならず)身体(しんたい)の六根(ろっこん)を潔(きよ)むべし

不浄(ふじょう)を見(み)て 心(こころ)に見(み)ず 不浄(ふじょう)を聞(き)きて 心(こころ)に聞(き)かず 不浄(ふじょう)を嗅(か)ぎて 心(こころ)に嗅(か)がず 不浄(ふじょう)を味(あじわ)ひて 心(こころ)に味(あじわ)はず 不浄(ふじょう)を触(ふ)れて 心(こころ)に触(ふ)れず 不浄(ふじょう)を思(おも)ひて 心(こころ)に思(おも)はず

如此(かく)六根清浄(ろっこんしょうじょう)なれば 神近(かみちか)く守護(しゅご)したまふ也(なり)

現代語訳

天照大御神が仰るには、人間は天下における神聖なる存在です。心の平穏を保つべきであり、心に穢れや悪を持つことを望んではなりません。

外の世界で汚れたものに触れることがあっても、心まで汚されなければ、天地の清浄な中にあって、内臓を司る神々も安らかであり、外から来る災いを退け、内から出る邪気を清めることができます。

人と神が調和し、長寿を全うするためには、外界の汚れを洗い清め、必ず身体(ろっこん)の六根を清めなければなりません。